

先行登録説明会のご案内

2010年度に開講されるプロジェクト科目(24科目)について、3月27日(土)今出川・京田辺各校にて登録説明会・先行登録を実施します。登録を希望する学生は、必ず登録説明会にも出席してください!

京田辺校地開講 9科目

3月27日(土) 13:15~登録説明会(知真館2号館202番教室)
14:15~先行登録

今出川校地開講 15科目

3月27日(土) 10:00~登録説明会(寧静館31番教室)
11:00~先行登録

詳細は、下記のプロジェクト科目のホームページをご参照ください。なお、「プロジェクト科目 先行登録要領/シラバス」(冊子)は、登録袋交付会場にて配付します(シラバス・講義概要はWEBで検索できます)。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>

テーマ一覧 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/theme/>

ブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>

シラバス・講義概要検索 <http://syllabus.doshisha.ac.jp>

2010年度プロジェクト科目一覧

テーマ	科目担当者(所属・氏名)
京田辺校地	
国際ナショナル・パフォーミング・アーツ・ワークショップ	丹下一
F1をつくらう! (2010 JSAE 学生フォーミュラ大会出場を目指して)	中村 成男
エンターテインメント商材を通して学ぶ 「実践の企画・開発・マーケティング」	株式会社タカラトミー 渡辺 公貴
「同志社山手」地区における まちづくりデザイン提案	株式会社 東洋設計事務所 齋藤 篤史
『スポーツイベント開催!』 学生と地域の連携によるスポーツクラブ	高橋 仁美
食育と健康 (自家菜園を通して業膳を考える)	NPO法人 けいはんな業膳研究所 井原 浩二
ものづくり中小企業(京都、京田辺市)の 国際展開を考える	NPO ほんものづくり プロデューサー開発センター 森 俊洋
エコに優しい京都企業に学び、 理想の環境経営を提案する!	JOHNAN株式会社 中野 哲浩
プロスポーツにおけるファン獲得と 地域密着のためのマーケティングリサーチ	スポーツ健康科学部 二宮 浩彰
今出川校地	
新京都みやげの創造 「Creation of new Kyoto souvenir」	株式会社 おたべ 酒井 宏彰
京都紹介Web2.0プロジェクト	中伏木 寛
夜間中学を社会に向けて発信しよう! 夜間中学を知っていますか?	次田 哲治
出会いを楽しめる空間づくり ～遊空間のプロデュース～	NPO法人 遊プロジェクト京都 上野 康治
京都の伝統織物の情報発信プロジェクト	日本伝統織物保存研究会 龍村 周
演劇で子供達と学ぶ 企画実践プロジェクト	NPO法人 フリンジシアタープロジェクト 大橋 敦史
映像の力・若者たちの見た京都	NPO 京都の文化を映像で記録する会 家喜 俊彦
「花のキャンパスライフ」から情報発信に挑戦、 新聞、ラジオ、ネットで	田原 敏孝
ウィーン風成人式 「オーバンバルin同志社」実現プロジェクト	澤野 井 信
花で生きる力を高める 一花を活用する生活と社会活動の企画実践プロジェクト	NPO法人 フラワー・サイコロジー協会 浜崎 英子
地域福祉に貢献する施設運営を体感しよう 小規模多機能施設開設に至るまで	社会福祉法人京都福祉サービス協会 堀 善昭
環境教育教材作成プロジェクト 一環境マインドを持った次世代リーダーの育成	財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団 麻生 朋子
私が企画する国民文化祭! 京都府南部エコミュージアムを創ろう!	国民文化祭京都府実行委員会事務局 青柳 良明
京の台所・錦市場がつながる 「京の食文化」を子どもたちに伝えよう!	株式会社 空 遠藤 正彦
ソーシャル・プロデューサー養成講座 一参院選と松本清張をプロデュースせよ	小関 道幸

プロジェクト科目とは?

2006年度から始まった「プロジェクト科目」は、教員が一方的に知識を伝授する座学の講義スタイルとは異なり、みなさん自身が構想、計画をし、ディスカッションを重ね、行動するという、実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えて共に活動し、プロジェクトを推進していきます。

記事募集のお知らせ

PBL推進支援センター通信では、同志社大学が取り組んでいるPBLの活動を中心に、他大学で展開されているPBLの事例紹介なども含め、発信していきます。実際に担当されている教職員や受講生、卒業生の皆さんからも、記事や情報を募集します。PBLについて、「こんな取り組みをしています!」「イベントを開催します!」といった記事や「〇〇大学でこんな科目があります」といった他大学の事例などの情報も是非、下記事務局までお寄せください。

問合せ先

同志社大学PBL推進支援センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 教務課内
Tel: 075-251-4630 Fax: 075-251-3064
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

ホームページ

<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>

PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

Vol.1



圓月勝博(同志社大学教育支援機構長 文学部教授)
「PBL推進支援センター設置にあたって」

山田和人(同志社大学PBL推進支援センター長 文学部教授)
「PBL推進支援センターの目指すもの」

金田重郎(同志社大学PBL推進支援センター副センター長 理工学部教授)
「PBLの課題と可能性について」

2009年度プロジェクト科目

- 「秋学期ワークショップ」
- 「学生懇談会」 ■「SA・TA懇談会」
- 「秋学期成果報告会」
- 「学生成果報告書」
- 2009年度市民公開型教職員協同講習会(第1回&第2回)
- 2009年度シンポジウム

2010年度プロジェクト科目一覧

2010年度プロジェクト科目先行登録説明会のご案内
記事募集のご案内



圓月 勝博

(同志社大学教育支援機構長 文学部教授)

「PBL推進支援センター 設置にあたって」

平成21(2009)年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】におきまして、本学が申請した「プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育～課題探求能力を育成するPBL教育の方法論的整備～」が選定されました。近年、わたしたちが全学をあげて取り組んでまいりましたPBL(Project-Based Learning)が公的に高い評価を受けたことを心から嬉しく思っています。

選定理由に目を向けますと、「PBLはこれからの教育において重要なものであることから、方法論を精緻化し、成果をあげ、他大学の参考となることを期待する」という審査委員会の見解が付されています。今後の大学教育におけるPBLの重要性が特筆されていることからわかるように、大学進学率が50%を超えて、社会における雇用状況にも大きな変化が見られる中、自分自身の個性あるキャリア形成を考えながら、学びの共同体のなかで一人ひとりの学生が課題探求能力を向上させていくことを教育目標とする双方向型学習理論としてのPBLに対する期待は、想像以上に大きなものがあります。公財政支出による支援も受

けることになった本学は、大学教育改革に新たな一石を投じるという大きな社会的責任も担うことになったのです。

そこで、2009年11月、本学教育支援機構のなかにPBL推進支援センターをさっそく設置しました。学内は言うに及ばず学外にもPBLの成果を発信して、プロジェクト・リテラシーの育成方策に関する共通理解を社会のなかで形成することが目的であることは、今さら言うまでもないでしょう。山田和人センター長を中心にして、私たち教職員自身がプロジェクト・リテラシーを向上させて、学生とともに学び続けていく決意を新たにしています。少しでも多くの方にPBL推進支援センターという私たちのプロジェクトに参加していただければ、それに優る喜びはありません。今後とも温かいご理解とご協力をお願いして、PBL推進支援センター設置にあたってのご挨拶とさせていただきます。

PBL(Project-Based Learning)とは、プロジェクト活動をベースにした実践型・参加型の学びのスタイルを指しています。同志社大学では、2006年度以来全学共通教養教育科目として「プロジェクト科目」を設置し、PBLの推進に取り組んできました。テーマの公募制を採用し、地域社会や企業・団体・個人の「教育力」をダイレクトに大学に導入することによって、現場で学び、本物にふれることを通して、自ら取り組むべき課題を発見し、その解決のため粘り強く考え抜く力をもった学生の育成に取り組んできました。

本学には教養教育としてのPBL以外に、学部・大学院・課外活動として、15拠点でPBLが実践されています。これらとの連携をとりながら、同時に、学外で実践されている幅広いPBLとの間で、PBLの教育・研究ネットワークを構築し、その教育効果の測定、教育方法の開発と研究、評価指標の策定を行っていく必要性を感じています。

そこで設置されたのがPBL推進支援センターです。本センターでは、PBLの教育・研究を推進・普及させるとともに、多角的、多層的に、PBLの間

題点と可能性について検討を加え、その成果を共有していくことで、次世代を担う人材の育成を目指しています。

我々は、プロジェクトを推進していくために必要な力をプロジェクト・リテラシーととらえています。プロジェクトについて深く理解し、プロジェクトの目的に応じて、コミュニケーション力や自己認識力、マネジメント力や行動力などを自在に適応していくことができる能力とそれを運用する良心(モラル)が、複雑化・多様化した現代社会を生き抜いていくためのアクティブな教養と考えます。

何より我々は、学生は育てられる存在ではなく、自ら育つ主体であると考えます。学生のなかに潜在する研究力(知りたい・学びたい)、教育力(教えたい・伝えたい)、社会力(役に立ちたい・つながりたい)を呼び覚まし、学生が自律的・自発的な学びを獲得していくことを支援します。

本センターは学生とともに教職員とともに、そして多くの教育関係者・企業・団体・行政のみならず、PBLの豊かな沃野への第一歩を歩み出したいと思えます。みなさまのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



山田 和人

(同志社大学PBL推進支援センター長 文学部教授)

「PBL推進支援センター の目指すもの」